

＜ 今日の説教のポイント ルカによる福音書 22 章 14～23 節 ＞
今の聖餐式につながる最後の晩餐に込められた意味を聞き取りたい。

1 (14-18) 3つの場面で考えているルカ。まず開始の場面から。

毎年持っていた過越の食事ですが、その意味が今後全く新しくなる大事な最後の晩餐の出来事です。イエス様の言葉にその緊張感が表れています。この食事に寄せる熱い思い(15)、これが地上で共に食する過越の食事の最後になること(16, 18)、しかし必ず再び共に食する時が来ることの予告(「神の国で過越が成し遂げられるまで」)などです。

17-18 節と 20 節で杯のことが繰り返されているように思えますが、ルカはそれぞれで大事なことを語っています。「互いに回して飲みなさい」は直訳すると、「あなたがたの間で分かち合いなさい」です。信仰が一人で成り立つものではなく、信じた者たちの中で支えられ、成長していくこと、すなわち、そのために神様が用意して下さった教会の枝となることの大切さが語られているのです。

2 (19) パンの意味。思い起し、生きる力が与えられる機会。

パンに込められた意味を教えられます。「あなたがたのために与えられる私の体」— 教会はこの出来事以来、聖餐式でイエス様が私たちの罪の贖いのために十字架に架かって死んで下さった恵みを覚え直してきたのです。「私の記念としてこのように行いなさい」の「記念」はただ懐かしく過去のことを思うだけでなく、その出来事を「想起」し、それによって今、もう一度生きることに向かって行く力が与えられることを思い巡らすことのできる言葉です。聖餐式でパンを食べるごとに私たちが行うように用意して下さった神様の恵みです！

3 (20) 杯の意味。聖書の神様に基づく救いの契約。だから確か！

17 節の杯はこの出来事全体に対する神様への感謝を表す杯と言えるでしょう。そして、20 節の杯でこそ、パンに続いてイエス様の十字架の死が持つ意味を語っておられます。「私の血による新しい契約」がその意味を表しています。聖書の神様はこれまでも一方的な赦しの恵みの契約を繰り返し与えて下さった神様です(ノア、アブラハム、ダビデ等との)。その神様が与えて下さった最大の赦しの契約が、御子の十字架の死によって私たちを新しい神の民として下さる契約なのです。信頼するに足る、一貫した神様の理を覚えずにはおられません。